

- ③ 板の上に砂やレキなど大きさの違うものをのせ、水中に沈めて流され方を調べてみる。
- ④ 川原につもっているレキの並び方を注意して観察する。並び方には一定の規則性がみられるが、このような状態はインブリケーション（レキの覆互状構造）とよばれる。どうしてこのような状態ができたのか考えてみる。
- ⑤ 川原のでき方や川岸のけずられ方、川の深さなどについて、流水のはたらきと関係づけてまとめてみる。

(4) 川原のレキを調べる。

川原で、レキのつもり方が平均している所を選んで、1 m 四方の方形枠を置く。

方形枠内の長径 5 cm 以上のレキをすべてビニルシート上にとり出す。
(表面に見えるレキのみ)



① レキの大きさを分ける。

レキの大きさによって、5～10cm, 10～15cm, 15cm 以上に分け、その数を調べる。

② レキの形で分ける。

石の形で、まるい石、ややまるい石、角ばった石に分けてその数を調べる。

③ 川原のレキの多くは安山岩、凝灰岩で、須川の上流に位置する吾妻火山帯は、このような岩石からできていることが推定できる。

④ 調べた結果を表にまとめる。

大 き さ (cm)			レキの形			種 類		
5～10	10～15	15以上	円	亜円	角	安山岩	凝灰岩	硅岩
48	12	7	17	46	4	52	6	3
72%	18%	10%	25%	69%	6%			

須川の上流でも同じようにしてレキを調べ、この資料と対比させることによって、流水のはたらきを一層よく理解させることができます。

上流の荒川の様子（土湯小学校）と比較すると、流水のはたらきによる地形の違いが、よりはっきりしてきます。